

Cantabile

2016. March

Vol.11

発行

山形県音楽教育連盟
山形県小中学校教育研究会音楽部会

発行日

平成28年 3月31日



小中高大学の本音連の 組織を機能させる

会長 三森 聡

「髪の毛を逆立てて声を出して。」指を三本突っ込み大きな口で……。と若手芸人の横澤夏子氏は、合唱指導をする音楽の先生のネタで昨年のもまねグランプリで優勝を果たした。ワンパターン化された合唱指導の様子が、見ている人には、ある意味共感され大笑いの渦となったのである。私もその中の一人であったが、裏を返せば、どの音楽教師も合唱指導のノウハウを同じように捉えて指導していることが多いのかもしれない。著名な合唱指導者にその指導ノウハウを学ぼうと本音連の合唱指導者講習会を楽しみにしている音楽教師は多いが、今こそ、ワンパターンでない子ども達の主体性を生かした合唱指導が求められているのではないかと。

昨年度の本音連主催のシンポジウムの中で、「好きな曲を自分で演奏したい」と思っているが、読譜力がないので演奏することができず悔しい。中学校ではいつも合唱ばかり、自分で楽譜を読めるようになりたかった……。と高校で音楽を選択した生徒が憤りを感じていたという。この話を聞いて、合唱指導の在り方や中高連携の必要性を強く感じた。

今回、こういった状況を踏まえ、県の六教振の施策とも関連させ、「探究型の音楽授業」をテーマに、自分の授業を見つめ直す研修会を持った。講師の八木正一氏の数多い実践は、子ども達を主体とする魅力ある授業づくりにつながるヒントとなり好評を博した。

また、この研修会に小中高大学より多数の参加者があり、主催者として嬉しく思った。これは、講師の魅力をはじめ探究的な音楽授業を極めたいという参加者の思いがあったこと、それに加え小中高大学の理事が地区ごとに声がけしてくれたことも大きな要因であった。

小中高大学と一環した組織を持つ本音連は、全国でも希であり、誇れることである。本音連のこういった組織や特色をより機能させ、今後の本県音楽教育の向上につなげていきたいと考えている。

村山地区

【小学校】
期 目 平成二十七年八月五日（水）
会 場 山形市霞城公民館
内 容 「子ども達が目を輝かし、夢中で活動したくなる歌唱表現」
講師 作曲家 橋本祥路氏
「ゴーゴーゴー」「夢の世界」「明日という大空」などを歌いながら、音楽における表現について教えていただいた。

◆音楽授業の表現
・学びでは、自分にはないものを観察して得る。
・表現者が楽しみながら音を出し、心にエネルギーを入れる。

◆音楽は感性

・美しいものは美しいなど、情操を豊かにもつことが大事である。
・鑑賞では、先生は考えるための情報を提示する。そして、自分なりにイメージさせる。
↓なぜそういうイメージになったのかが大事で、これをくり返していく。そして、友達の見聞を聞き尊重し合う。

☆楽譜は、作曲者のメッセージであり、それをどう受け取るか。そして、音楽の授業は、体調も身なりも整えて、別世界に入るかのようにしていくと効果的であるという話が印象的だった。

【中学校】
期 目 平成二十七年九月九日（水）
会 場 山形市立第五中学校
担当 真田（西根小）



内 容 「ICTを用いた音楽の授業実践」
表現・鑑賞・創作の三分野でのICTの活用のある方について

田中 健次氏 茨城大学教育学部教授
「音楽教育におけるICT」とは、PCや電子楽器もICTととらえて良いことを学んだ。音楽に関する新しい技術・考え方であると考えると、互換性によって有機的・統合的に活用できる環境を作ることが大切である。

今、求められる音楽教育とは、「考える音楽教育。」そのためにどのようなことをICTで活用できるか考えなければいけない。なぜそう思うか、そう考えるか、考えるきっかけを作ってあげることが大事。教師がいなくなるようなICTであってはいけない。できることからICTを用いた授業に取り組んでいきたい。
担当 佐藤（陵東中）

庄内地区

【小学校】
期 目 平成二十七年十月十三日（火）
会 場 酒田市立亀ヶ崎小学校
内 容 授業研究会
・授業者 中條さつき
・題材名 「旋律のかさなりを感じ取ろう」（四年生）
「パレードホッホ」の[7]と[8]の伴奏が同じであることから、二つの旋律が重なり合うことに気づき、男女別、パート別などグループングを変え、くり返し飽きずに歌って楽しんでいった。ICレコーダーを活用し自分たちの歌声を振り返ることも効果的であった。

【中学校】
期 目 平成二十七年十一月十二日（木）
会 場 酒田市立第三中学校
内 容 授業研究会
・授業者 石川結実
・題材名 「曲の特徴をとらえ、曲想を感じ取り表現を工夫しよう」（三年生）
少人数のグループで「O sole mio」後半の表現を工夫。原語で歌いながら強弱や三拍子リズムなど、歌いながら試行錯誤し、自分たちの表現を作り上げて発表。カンツォーネの魅力に浸りきることでできた一時間でした。

担当 池田（酒田四中）
期 目 平成二十七年七月三十一日（金）
会 場 出羽庄内国際村
内 容 合唱指導者講習会
「子どもの意欲を引き出す合唱指導」
今年で三十回を数える合唱指導者講習会



「つなぎ台おう人・思い・音楽」 ～県音連テーマ～ 平成27年度 4地区・高等学校 研究協議会 あしあと



置賜地区

期 目 平成二十七年十月五日（月）
会 場 高島町立第三中学校
内 容 「全校合唱指導の参観と合唱指導講習会」
柿崎泰裕氏（山形県合唱連盟副理事長）
合唱指導のこだわりについて
人間関係作りⅡ隊形と距離
隊形は無意識に関わり合いと響き合いを生む。教師が心の距離と心の変化を感じるセンサーをいつも持ち続けること。
② 受け皿作りⅡ生徒指導の三機能が働く場
授業のルール作り・価値作りが、授業がスムーズに行える不可欠な要因。指導者は、楽譜やピアノをなるべく見ないで子どもを観察して指導する。
歌いながら実践
曲名「夢の世界を」「すてきな一歩」
「Wish」夢を信じて
「明日という日」「春に」

よい合唱とは？
ア. 一生懸命 イ. 声の豊かさ
ウ. 言葉・声の聴きやすさ
エ. 合う オ. 表現力
最初にどこから切り込むか（どんな集団か？声と発声は？音取りは正しいか？音と言葉を結びつけて歌っているか？）

① 基礎力の育成Ⅱ発声と母音指導
話の口の開け方を歌うための口の開け方にする。音の豊かさは母音から。発声の習得には、テンポがゆっくりの曲が良い。
② 音楽のいのち作りⅡ音楽の本質の面白さを教える。
注意は具体的に（何を目標に、何をどう直したいのか？合わせたいのか？を吟味して）
ア. ブレスの場所の確認 イ. 音の長さを正確に ウ. 出だしの準備 エ. フレーズはどこに向かうのかなど
まとめ
きめつけない。とらわれない。あきらめない。音楽に惚れ込み、生徒に惚れ込む。本物を目指し続け、悩み続けること。
担当 細川（赤湯小）



最北地区

【小学校】
期 目 平成二十七年十一月十七日（火）
会 場 東根市立高崎小学校
内 容 授業研究会
・授業者 秋生玲子教諭
・題材名 「いろいろな音を楽しもう」（一年）
お星さまの楽しそうな様子を音楽であらわそう。」というめあてで活動した。使う楽器は、タンバリン・鈴・トライアングル・鉄琴の四つに限定し、星たちの様子をどのように表現するか、どのような音で表現すればいいか、一人一人が真剣に音と向き合っていた。

・指導助言
會田以久子氏（前宮浦小学校校長）
低学年のこの時期には、楽器の音色の多様性を感じ取り、音に対する感性を育てていくことが大切。そのためには、楽器を限定したことはよかった。感性を育てるためには、基本的な楽器の扱い方と同時に、打場所、打ち方、マレットとの関係で、同じ楽器でも音色が変化することにもつかませておきたい。
担当 元木（楯岡小）

【中学校】
期 目 平成二十七年十一月十七日（火）
会 場 東根市立第三中学校
内 容 授業研究会
・授業者 長谷部静香教諭・布川 歩美講師
・題材名 「リズムアンサンブルを楽しもう」（二年）
器楽の教科書に掲載してある「打楽器のための小品」を教材とした授業で、生徒は六人のグループに分かれてボディーパーカッションで楽曲を演奏し、ハンド・クラップだけでなく、体の様々なところを叩くことで変わる音色の変化や表現の仕方を工夫して明るい雰囲気を楽しげに活動していた。
・指導助言
佐藤文昭氏（前山形県音楽連盟会長）
生徒が関心を持てる題材設定と教材で、参加者の「勉強したい」という気持ちがありよかった。また、生徒は「学習している」という気持ちで活動していたが、「リズムが打てる」「リズムがつながる」などを刺激していくと、この教材は「おもしろい」につながるだろう。今日の課題は「表現が楽しい」という点であったことから、もつと生徒をほめたほうがよかった。また、一年生でのリズム指導の意味と系統性を持たせて学習の計画をすることが大切である。
担当 佐藤（葉山中）



高等学校

期 目 平成二十七年六月十八日(木)
十九日(金)

会 場 山形県立酒田光陵高等学校

内 容

(1) 研究授業

音楽Ⅰ「世界の名曲に親しもう」

山形県立酒田光陵高等学校

佐藤優子教諭

(2) 研究演奏

教科書教材をメインに

♪スモークオンザウォーター

♪デュープリバー ♪リベルタンゴ

♪ふるさと ♪ブラジル

庄内地区会員一同が様々な楽器に挑戦し

器楽合奏と合唱を披露。

(3) 研究発表

教科書からの発展学習

♪ピアノ連弾で繰り広げるミニ総合芸術

山形県立山形北高等学校 門脇史恵教諭

代理発表 沼澤留美教諭

講習会①「簡単な作曲指導法について

♪二小節の動機を発展させて」

講習会②「教科書教材の編曲とピアノ伴奏

奏法 ♪ポップス風アレンジについて」

講師…①②とも 宮城県仙台南高等学校

内藤淳一氏

特に、全日本吹奏楽コンクール課題曲に五曲採用され、また教科書編纂などでも活躍されている内藤淳一先生による講習は、普段苦手とする創作活動への切り口として、ピアノだけでなくギターの実演を伴った有意義な実践型講習になりました。

一泊二日の予定で開催されたおかげで情報交換会が持たれましたが、日頃校内に

人しか配置されないため悩み事をたくさん抱えていたものを、交流することでお互いにヒントを出し合いながら励まし合う姿がとても印象的でした。

東海大学山形高等学校では七月三日(金)飯森範親指揮山形交響楽団演奏会を全校生で鑑賞し、プログラムの最後にベルディ作曲「アイーダ」凱旋行進曲を本校吹奏楽部員約七十名と共演させて頂きました。飯森氏がスクールコンサートを指揮したことやその中で高校生吹奏楽と共演をしたことも初めてであり、今後の山響の事業を展開させるためにたいへん参考になる企画になりました。 担当 大沼(東海大山形高)



ピクニックコンサートへ、どうぞ！

昨年度から山形大学文化ホールを活用してキャンパスコンサートを開催している。今年度は山形ゆかりの音楽素材を集めてプログラムを構成し、各回とも本学の学生と山形で活躍する演奏家の方々が共演している。第一回は日本人の女性作曲家第一号として活躍した松島舞の作品を紹介し、第二回は若手ピアニストたちの独奏とアンサンブルで構成、そして第三回は高島町出身の童話作家、浜田広介の名作『泣いた赤鬼』を素材にしたオペラを披露した。おかげさまで大学と地域の新たな連携の試みとして、ご来場の方々からはお褒めの言葉を頂戴している。さて、今年度キャンパスコンサートの一部として初めて取り組んだのがピクニックコンサートである。これは小学生以下の子どもたちを対象にしたもので、曲の解説や楽器紹介など、お話を交えながら進行し、子どもたちに音楽のよさや楽しさを味わってもらふことを目的としている。

プログラムの一例を紹介すると、まずはジャンケン列車などのゲームで大学生と子どもたちが仲良くなり、空気が温まったところでピアノ連弾や金管五重奏を解説付きで鑑賞。最後はみんなで楽器を手作りして「ドレミの歌」のアンサンブルを楽しむといったものである。そしてコンサート終了後は、大学の中庭でお弁当やおやつを食べるピクニックの時間である。演奏した学生も子どもたちの輪に交じって仲良くピクニックを楽しむ。このような取り組みは本学にとつて初めてのものであり、担当した学生たちも当初は手探り状態であったが、幸いなことに県音連会長の三森聡先生から特段のご理解とご協力を賜ることができた。この場を借りて深く感謝申し上げたい。

運営責任者を務めた大久千賀子さん(音楽芸術コース三年)は「子供たちに楽しんでもらうためにはどう工夫すれば良いのかを仲間と知恵を絞るあうことで、沢山の学び

や新たな発見を得ることができた」と述べ、取り組みの成果を実感している。

地域貢献的な事業として始めたものではあるが、学生の実践的な学びの場として極めて有意義なものとなっている。

この取り組みは二十八年度も継続して行う計画である。ご希望がある場合は佐川までご連絡をいただきたい。みなさまピクニックコンサートへ、どうぞ！

担当 佐川(山形大学)



ピクニックコンサート

小学生以下の子どもたちを対象にした気軽なコンサートです。お弁当やおやつを持って山形大学に来てみませんか。開催日程や演奏曲目はお問い合わせください。
♪会場：山形大学文化ホール 入場無料
♪一回の入場者数は引率の先生、保護者を含めて100名まで
♪曲の解説や楽器紹介など、お話を交えながら進行する楽しいコンサートです。
♪ご希望に応じて、子どもたちが演奏する時間を設けることもできます。

【申し込み】

2016年5月1日から7月末日まで
山形大学佐川研究室 ☎023-628-4332
sagawa@e.yamagata-u.ac.jp

あとがき

今年度、平成三十年年度に行われる東北音研酒田・飽海大会にむけて新たなテーマ「つながり」を人・思い・音楽」が生まれました。来年度は、このテーマを音楽科の研究視点として各地区協議会を開催し、全県で共有化を図っていきましょう。二十八年度は山形県音楽教育の向上のための新たな一歩となる年です。

担当

色部(滝山小)
小島(蔵王二中)
斉藤(山十中)